

令和 2 年度

社会福祉法人有徳会 事業報告

## 目 次

社会福祉法人有徳会	事業報告	2 頁
特別養護老人ホーム松阪有徳園（ユニット型）	事業報告	3 頁
特別養護老人ホーム松阪有徳園（短期入所）	事業報告	4 頁
居宅介護支援事業所有徳園	事業報告	5 頁
特別養護老人ホーム飯高有徳園（従来型）	事業報告	6 頁
特別養護老人ホーム飯高有徳園（短期入所）	事業報告	7 頁
特別養護老人ホーム飯高有徳園（ユニット型）	事業報告	7 頁
グループホームゆうとく	事業報告	9 頁

【課題1】施設サービス

各施設の地域性や施設設立からの年数によって相違があるため、良いところは継続し時代に応じて施設長、ケアマネジャー、生活相談員、ユニットリーダーを中心に運営しました。来年度も法人一体となり地域の皆様に喜ばれる施設を目指します。

【課題2】経営面

今年度は職員不足やコロナ禍の影響もあり、全ての施設において稼働率が低下し、安定した運営が厳しい現状となりました。来年度は、全ての施設で目標稼働率を必達しなければなりません。引き続き経費節減は推進していきます。  
毎週火曜日開催の経営会議、月1回の運営会議は来年度も継続していきます。

【課題3】雇用の安定・人材育成

今年度は5名の外国人技能実習生を受入れました。来年度も技能実習生の受入れが決定しています。しかし将来の飯高有徳園の職員年齢を考えると技能実習生以外の雇用手段を考えることが必要と思われれます。  
キャリアパスに伴う資格取得も積極的に助成できました。

【まとめ】

今年度はすべての施設において稼働率が低下する厳しい状況となりました。来年度は目標稼働率を必達し、施設建物および設備の老朽化に備えなければなりません。また、人材確保（全ての職種）に特化した仕組みの構築を今から準備していくことが肝要です。

## 令和2年度 特別養護老人ホーム松阪有徳園 事業報告

【課題1】特養入居率 目標 95%以上 結果 85.4% 平均介護度 3.8

職員間の申し送り、各種会議、記録等で把握に努めたものの、入居期間が長期となったご入居者様の高齢化に伴う体調不良での入院や施設対応が不可能になった退所で稼働率の維持は非常に厳しい現状となった。また、入居待機者においても入居希望の方が少ない状況もあった。今後、入居待機者の最新の情報整理を推進し、地域で介護に困っている方が迅速に入居して頂ける体制をつくと共に、継続して多職種協働で、介護・医療のケア技術の向上を図り、ご入居者様に安心安全なサービスを提供していく。

【課題2】人材育成とサービスの向上

新たに設けた介護主任がユニットリーダー不在時の連絡調整や困ったとき等の相談に乗ることで安心しその場で解決できるようになった。

人材育成も偏った職員による育成ではなく、ユニット会議での勉強会開催等で上からではなく、自ら考え取り組んでいく姿勢がみられた。引き続き、研修制度を充実させ、新任・現任・役職に応じて適切な研修を実施し、専門性の習得を行い、人材育成とご入居者様に対して質の高いサービスが提供できるように努める。

【課題3】「生き甲斐のある自由な施設の創造」と「その人らしさの実現」の取り組み

各ユニットや行事委員会担当だけに任せるのではなく、ユニット会議を活用し職員全体でご入居者様に楽しんで頂ける企画と提案に努め、毎月の飾りつけの更新、お一人お一人の希望に添った誕生行事の提供、季節感のある取り組みなどを実践できた。また、朝礼や各種会議や各委員会等の職員が顔を合わす機会を定期的に確実に持って声を掛け合うことで、ともに自己研鑽していく意識を育むことで法人理念に近づけていく流れができつつある。

## 令和2年度 短期入所生活介護事業報告

ショートステイ 松阪有徳園

【課題1】 ショート利用稼働率 目標 80% 結果 29.1%

令和2年4月から、退職に伴う職員不足で入居制限を行ったため稼働率は大幅に減少した。職員補充により令和3年4月より制限をなくした。今後、60%の稼働率を達成し、目標である80%を維持できるよう予約段階での稼働率を意識して調整にあたるっていききたい。今後はより迅速な予約調整と「予約が取れない」と思われたい工夫も考えていく必要がある。

【課題2】 個々にあったケアの統一（チームワーク作り）

職員不足もあったが、ケアの統一が意識できておらず業務優先になっている状態であった。新たなユニットリーダーが就任しスタッフ同士の意見交換は増えてきている。ユニットリーダーや日勤者だけで考えるのではなく、スタッフ全員で考え、引き続きご利用者様個々のケアにつとめていききたい。

【課題3】 取組意識統一の構築

スタッフ個々の取組意識は、徐々に向上している。しかし、企画・催しのマンネリ化を防ぐための取組は、引き続き考えていく必要がある。また、女性利用者が楽しめるレクリエーションは多くあるが、男性利用者が楽しめる環境が作れていなかった。ショートステイだけの枠組みで考えるのではなく、他の部署と関わり、ご利用者が喜んでいただける機会を増やしていきたい。

## 令和2年度 居宅介護支援事業所有徳園 事業報告

### 基本方針

- ① 利用者が要介護状態等になった場合においても、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、自助、共助、公助を適切に組み合わせて主体性を尊重した自立した日常生活を営むことができるよう配慮して援助に努めました。
- ② 利用者の心身の状況、その置かれている状況に応じて、利用者自らの選択に基づき適切な医療保健サービス及び福祉サービスが、施設等の多用なサービスや事業者の連携を得て総合的かつ効果的に介護計画を提供されるよう配慮して行いました。  
(ケアマネジメントについては、生活上の課題の分析を十分に実施し、高齢者と家族の希望によりサービスを組み立てました。)
- ③ 事業の運営に当たっては、利用者の所在する松阪市、地域包括支援センター、他の居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、介護保険施設等との連携に努めました。
- ④ 利用者の要介護認定等に係る申請に対して、利用者の意思を踏まえ、必要な協力を行います。また要介護認定実施の有無を確認し、申請書類の支援も行いました。サービスの実施状況や利用者の要介護状態の変化等を適確に把握し、実効的なサービス利用を行いました。
- ⑤ 上記の他「指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準（厚労省令第38号）」を遵守しました。
- ⑥ ケアプラン作成に当たってはICF（国際生活機能分類）の考え方を踏まえ、取り巻く環境や日常生活の様々な活動の自立度の向上を重視しました。

### 支援方針

- ① 在宅で生活する40才以上の要援護者等、またはこれらの者を抱える家族等に対し、在宅介護に関する総合的な相談及び情報の提供を行いました。また在宅の要援護高齢者及びその介護者の介護等に関するニーズに対応した各種の保健・福祉サービスが総合的に受けられるように関係行政機関、サービス実施機関等との連絡調整を行い、地域の要援護高齢者及びその家族の福祉の向上を積極的に図りました。
- ② 在宅の認知性高齢者等を抱える家族等の介護に関する心配ごと悩みごとについて総合的な相談等に応じ認知症性高齢者及びその家族の福祉の向上を図りました。
- ③ 利用者の日常生活全般を支援する観点から要介護等の相談に応じ居宅での介護サービスやその他の保健医療サービス、福祉サービスを適切に利用することができるよう、「居宅サービス計画（ケアプラン）」を作成しました。
- ④ 「介護予防・日常生活支援総合事業」の理念に基づき、何らかの支援が必要となった時には、多様な主体による、多様なサービスの充実を図るようなケアプランの作成を目指しました。

## 令和2年度 特別養護老人ホーム飯高有徳園 事業報告

事業目標 「利用者が住みやすい環境に」  
「職員が働き甲斐のある職場に」

### 1. 事業方針

- (1) 利用者の人権を尊重し、その人らしさを実現できるよう支援します。
- (2) 安心で安全な暮らしを実現できるようリスク管理を徹底します。
- (3) 限られた資源、人材による効率の良いサービス提供を行います。
- (4) 安定的な収入を確保できるよう空床期間の短縮化を図り、稼働率アップを目指します。また資格取得を推進し、加算等収入増に繋がるよう取り組みます。
- (5) 職場環境や処遇を改善し、職員がやる気を持って気持ちよく働ける施設作りを行います。
- (6) 技能実習生受入を促進し、慢性的な人員不足の解消を図ります。

### <各部署報告>

#### 【特別養護老人ホーム飯高有徳園（従来型）】

#### 1. 重点項目

- (1) 稼働率 87% 1日平均利用者数 43名
- (2) 人材の育成
  - ①職員一人ひとりが自分の役割と責任を自覚し、役職ごとに合わせた責任と、その各チームが利用者に向けた支援や取り組みを実施しました。
  - ②外部研修への参加や施設内研修会を実施しました。
  - ③資格取得への推進を行いました。
- (3) リスクマネジメント
  - ①待遇向上や事故防止に努め、利用者が安全・安心に生活できるよう支援しました。
  - ②感染症の発生、蔓延予防のため、研修会の開催と予防対策の徹底を行いました。

#### 2. 介護部門

##### 【目標】

「利用者が快適な生活を送れるように支援します。」

##### 【取り組み内容】

- (1) 利用者一人ひとりと積極的に関わりを持ち、確実に関わる時間を設けました。また、記録を行い、その後のサービスに繋げました。
- (2) 利用者が安心・安全に生活できる環境作りへの取り組みを行いました。

##### 【具体的行動】

- ・各担当者が各利用者の接遇に対する個別計画を立て、実践した取り組みを評価しました。
- ・生活環境の整備を行いました。(居室や共同スペース等)
- ・季節毎のレクリエーションを実施しました。

#### 3. 看護部門

##### 【目標】

「認知症を理解し、利用者の健康状態に応じた看護を提供します。」

##### 【取り組み内容】

- (1) 健康状態の変化を早期発見し、適切な判断が出来るよう職員間で情報共有し、連携を図りました。
- (2) 利用者の健康状態が低下した時には、迅速にケアカンファレンスを行い、ケアの統一を図りました。

#### 4. 栄養部門

【目標】 「食事既定の見直しを図り、安全に栄養状態の維持ができるよう支援します」

【取り組み内容】

- (1) 栄養ケア計画書に基づいた適切な食形態や量での提供及び支援を行いました。
- (2) 他職種との連携を図り、食事摂取量、体重測定、採血等からモニタリングを実施しました。  
同時に提供量や形態の見直し、栄養補助品の活用により栄養状態の維持に努めました。
- (3) 委託会社との連携を強化し、調理法や形態の見直しを行い、安全な食事提供を行いました。

5. 会議、委員会

- 【運営】 運営会議
- 【安全管理】 介護事故防止委員会、身体拘束廃止委員会、褥瘡予防委員会、感染症対策委員会
- 【サービス向上】 サービス担当者会議、給食会議、看護師会議、リーダー会議、介護士会議、合同会議
- 【事業内連携】 衛生委員会、入所検討委員会、苦情解決委員会
- 【その他】 きずな新聞委員会、各リスク委員会研修、身体拘束カンファレンス

【短期入所生活介護（ショートステイ）飯高有徳園】

- (1) 稼働率 44.5% 1日平均利用者数 4名
- (2) 受け入れ体制の整備
  - ① 緊急の利用に備えて、迅速に情報を集約し各職種がいつでも受け入れができるよう体制を整えました。
  - ② 事業所及び行政機関等と連携し、飯南・飯高地域の高齢者、介護者状況を把握し、地域に根付いたサービス提供を行いました。
- (3) 在宅生活継続支援
  - ① 在宅生活が主であることを踏まえ、家庭での生活状況を理解し、その生活が維持・継続できるように支援しました。
  - ② ご家族の意向や負担軽減への対応に努め、家族、利用者共に安心して利用していただけるよう支援しました。

【特別養護老人ホーム飯高有徳園（ユニット型）】

1. 重点項目

- (1) 稼働率 90.9% 1日平均利用者数 27.0名
- (2) 人材の育成
  - ① 職員一人ひとりが自分の役割と責任を自覚し、役職ごとに合わせた責任とその各チームの結束力を強化しました。
  - ② 外部研修への参加や施設内研修会を実施しました。
  - ③ 資格取得への推進を行いました。
- (3) リスクマネジメント
  - ① 接遇向上や事故防止に努め、利用者が安全・安心に生活できるように支援しました。
  - ② 感染症の発生、蔓延予防のため、研修会の開催と予防対策の徹底を図りました。

2. 介護部門

【全体目標】

「入居者様と職員が笑顔で過ごせる生活を実現します」

【取り組み内容】

- (1) 入居者様一人ひとりの意向や好みを把握し、24時間シートを活用しました。
- (2) 入居者様の生活が楽しめる時間を作りました。

[具体的行動計画]

- ・入居者様との関わりあう時間を多く持ち、個々のニーズを汲み取り24時間シートに反映させました。

- ・毎月、各ユニットが全体の行事を計画し、また、個々のニーズにあわせた行事を企画、実行し、入居様が楽しめる環境を作りました。
- ・時間を有効に活用し、入居様の日々の生活を張りのある充実した物にできるよう努めました。

### 3. 看護部門

#### 【目標】

「利用者の身の回りの清潔に心掛け、気分良く穏やかな日々が過ごせるように援助します」

#### 【取り組み内容】

- (1) 利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を過ごす事ができるように努めました。
- (2) 健康状態の把握を行い、早期発見、早期対応に努め、各部署との連携を図り報告連絡を密にしました。

### 4. 栄養部門

【目標】 「食事既定の見直しを図り、安全に栄養状態の維持ができるよう支援します」

#### 【取り組み内容】

- (1) 栄養ケア計画書に基づいた適切な食形態や量での提供及び支援を行いました。
- (2) 他職種との連携を図り、食事摂取量、体重測定、採血等からモニタリングを実施しました。  
同時に提供量や形態の見直し、栄養補助品の活用により栄養状態の維持に努めました。
- (3) 委託会社との連携を強化し、調理法や形態の見直しを行い、安全な食事提供を行いました。

### 5. 会議、委員会

【運営】 運営会議

【安全管理】 介護事故防止委員会、身体拘束廃止委員会、  
褥瘡予防委員会、感染症対策委員会

【サービス向上】 サービス担当者会議（毎月）、給食会議（毎月）、看護師会議、  
リーダー会議、フロア会議

【事業内連携】 衛生委員会（毎月）、入所検討委員会、苦情解決委員会

【その他】 きずな新聞委員会、各リスク委員会研修、身体拘束カンファレンス

## 令和2年度 グループホームゆうとく 事業報告

年間事業目標 「地域に信頼されるグループホームの実現と安定した運営」

### 1. 認知症対応型共同生活介護の総評

令和2年度の年間稼働率は94.75%（前年度98.64%）年間平均入居者数は17.05人（前年度17.72人）となりました。令和元年度と比較すると稼働率-3.89%、入居者数-0.67人となりました。

また入居者平均年齢としては、令和3年3月末の入居者平均年齢は91.40歳、平均要介護度は2.27となっております。令和2年度下半期より高齢による内科的疾患により食事摂取意欲、摂取量の低下による入院、点滴治療の為、当施設の利用条件を超え退居となる方が増え、今後より、医療的ニーズも増えることから、職員の医療知識の向上や、それらのニーズに合う施設運営も今後の課題です。

グループホームの活動については、新型コロナウイルスの影響によりイベント等の中止。地域のイベントも中止のため参加もありませんでした。また、他事業所との会議等も中止により交流や連携が取りづらい一年でありました。

### 2. 重点項目の評価

#### 【認知症ケア、個別ケアの追求】

入居者の方一人ひとりの尊厳を尊重した認知症の個別のケアを取り組み、その対応に応じた接遇の在り方や介護技術の向上を行い、職員業務の改善により、質の高いサービスの提供が行えたと思います。また、重度高齢化により、全入居者の方対象の全体でのサービスが難しくなっているが、個別ケアに力をいれ、個々の担当制の向上に努めることができました。

#### 【入居者様、家族様が安心できるサービスの提供】

地域や家族の皆様には、全体的な評価も良く、信頼関係が築かれています。管理者及び職員一同で明るい職場環境が維持できるように努めてきたと思います。ただ、コロナ禍の一年であり面会等のお断り、家族参加のイベントの中止となり、ご家族様、入居者様には心配や不安を感じさせたかと思えます。その中でもオンライン面会の活用や、面会の段階を細かく設け、臨機応変な対応が取ることが出来たのではないかと思います。

入居者の方のできる事を行って頂き、一人ひとりに合った役割やその人らしい生活が出来るよう、自立支援の生活の実現に努め、また、感染症の蔓延もなく安全に生活できたと思えます。

#### 【安定した事業運営と信頼される施設管理】

上半期については安定し高い稼働率が実現できましたが、下半期に入り高齢による内科的疾患が原因で入院しそのまま退居となる方が増えました。入居待機者についてもそれぞれ5名ほどいた待機者も死亡もしくは別施設への入居となり待機者が0といった状況が続きました。

業務の改善や人員配置を行いながら、効率のよい業務になるよう考え、経費の削減や節約にも努めました。

「松阪市条例に基づくコンプライアンスの厳守」「介護保険に関する各種制度の把握」「運営における事業の透明性の確保」などの透明性のある施設運営を考え、管理者や介護職員への伝達や連絡をこまかく行い、統一し把握してきました。来年度も、引き続き努力していきたいと思えます。

【ご家族様や地域との連携強化】

入居者の方の日常生活や健康管理を、家族の方の面会時に報告し説明おこない、細かな連絡も行い、又ケアプランの説明などもわかりやすく話し、ケアプランに沿ったサービスが出来るように努力してきました。その中で家族の意向や意見などを取り入れ、改善出来るように意識を高めて業務を行い共有してきました。また、出来る限り入居者や家族の皆様に満足頂くよう努力してきました。地域の拠点になる「グループホームゆうとく」を目指し地域と連携した事業であり、2ヵ月に1回開催しています「運営推進会議等」の議論を踏まえ、認知症ケア個別ケアの必要性を考え、これからの課題は、より一層地域の方々とふれあえる機会を設け理解して頂くことが重要であることから「触れ合いを大切に」として交流し取り組んでいきたいと考えています。

### 3. その他管理

◆医療管理

早期発見と早期対応や受診にできるように、日々のバイタル測定し異常時の報告や連絡や申し送りに強化し把握してきました。その分、入院や通院は少なく、感染症も蔓延せず健康管理が出来ていたと感じます。看護知識のある職員も業務しており、協力医院や病院などへの連絡など、宮前診療所などと連携し医師の指示を仰ぎ、適切な対応を行い適切な医療管理を行ってきました。高齢化が進んできている中、一層重度化の入居者様の対応をおこなうことが重要である事から、グループホームでは、より深い対策や医療機関との連携、職員の医療知識の向上が大切となってきます。

◆事務管理

管理者・介護支援専門員・計画作成担当者が業務を兼務し、介護業務を行いながらではありましたが、本来の事務業務を協力、連携し行うことができました。様々な問題点については運営会議を適時開催し、早期の対応をとり、また、業務分担についてもそれぞれの役割を持ち、自分が行うことを把握し、業務時間内で行えるようにし、経費節減に取り組みました。引き続き取り組んでいきたいと思えます。